

令和2年 小企画展

和高節二没後30年記念

「和高節二の作品と人生」

会期 12月27日(日)まで

会場 安芸高田市歴史民俗博物館  
1階小企画展示コーナー

期間中、歴史民俗博物館が所蔵する資料19点を特別公開。手紙や下書きなどの貴重な資料も併せて展示します。

企画展に行ってみよう!

見どころ1



「むらのおとめたち」(博物館寄託)

女性が持っているのは、節二がデッサン用の写真を撮影していたカメラ。素朴な背景に赤いタスキが鮮やかに映えます。

見どころ2

「仔牛誕生」

人と仔牛が登場する作品はいくつかあり、こだわりや思い入れのあるテーマ。仔牛の淡い色合いと農婦の緑のコントラストが美しい作品です。



見どころ3

下書き用のスケッチブック

全国にその名をとどろかせた代表作「牡牛」の下書きを見ることができます。



和高節二の

作品に迫る

東京と地元を行き来することはあったものの、生活の基盤を地元から移すことがなかった和高節二。向原町で暮らす人々とともに暮らす牛たちなどの日常を描き続けました。注目して見てほしいポイントはこちらの3つ。知っている作品鑑賞がもっと楽しくなります。



広島県立美術館所蔵

衣服の描写が繊細

「村の子供」

昭和10年代は細部まで細かく描写された作品が多くあります。子どもが着ているかすりの紋様まで丁寧に描かれており、まるで実際に布がそこにあるかのような美しさです。

女性の表情の描写が独特

「みやまの女」

特に女性の表情が簡素化され美しく描かれているのがわかります。農村で汗水垂らして働く姿ではなく、生活感を感じさせない様式化された表情が印象的です。



広島県立美術館所蔵



広島県立美術館所蔵

対比を楽しむ  
メリハリのある色使い

「石崖」

和高節二は歳を重ねるにつれ、背景に描かれた石垣のような、生き物ではないものにも関心を持ち描くようになります。黒、赤、白を使ったメリハリのある色使いが特徴的です。

魅力に迫る 和高節二 (1898~1990) の

没後30年 向原町出身の日本画家

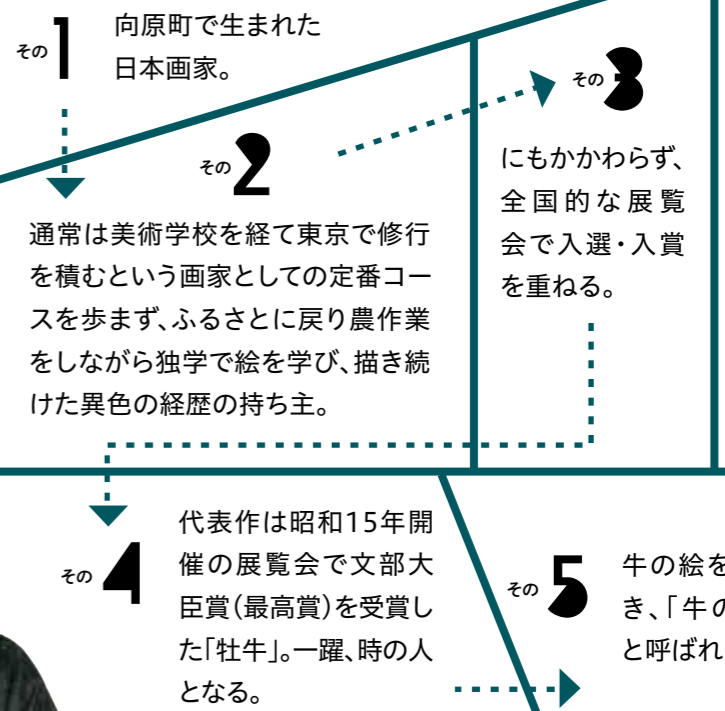


「牡牛(うしうし)」  
競り市で売られていく牛の哀愁漂う表情を描いた作品 広島県立美術館所蔵



和高節二の

人物像に迫る



お話を聞いた人

ふくやま美術館  
学芸員 永井 明生さん  
和高節二の作品を多く収蔵する広島県立美術館に1996年から2014年の間、学芸員として在籍。近現代の日本画の専門家。



ここにも展示されています

節二ゆかりの向原町にある「向原生涯学習センターみらい」内の「市民ギャラリー向原」では10点の作品を常設展示しています。こちらもぜひご覧ください。

〈 住所 〉吉田町吉田278-1 ☎42-0070  
 〈 入館料 〉大人300円(200円)、小人150円(100円)  
 ※ ( ) 団体20名以上  
 〈 開館時間 〉9時~17時 〈 休館日 〉月曜(祝日の場合は翌日)